

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

令和2年1月16日(木)15:30~16:40 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶

— 吉田 憲司 (館長)—

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 園田 直子 (議長)—

3. 特別展「先住民の宝」

[詳しくはこちら](#)

先住民と呼ばれる人びとは現在約3億7千万人、世界70カ国以上の国々に暮らしています。本特別展では、約740点におよぶ展示品と写真パネルや映像で、先住民の歴史や伝統的な暮らしを紹介するとともに、先住民運動など、現在彼らが抱える問題も解説します。サーミのナイフ、アボリジニのドリーミング、カナダ先住民のトーテムポール、そしてオラン・アスリの精霊など、先住民の思いをのせた数々の展示品とともに、先住民の世界を紹介します。

期 間：3月19日(木)~6月2日(火)

会 場：国立民族学博物館 特別展示館

観覧料：一般 880円(600円) 大学生 450円(250円)

高校生以下 無料

※ () は20名以上の団体料金

リピーターは団体料金を適用

※本館展示もご覧いただけます。



— 信田 敏宏 (グローバル現象研究部 教授)—

4. 特別展「先住民の宝」関連イベント

ワークショップ「ボードゲームで学ぶ・考える 北極域の環境変化と人」(仮題)

本ワークショップでは、極北先住民の現在について講義を聞いたあと、北極域研究学習ツール(ボードゲーム)『The Arctic -Arctic Challenge for Sustainability-』をプレイしながら、北極環境変化と社会への影響について学びます。

参加者は「先住民」「文化人類学者」「海洋学者」「開発業者」「漁業者」「外交官」の6つの役割になりきって各自の目標達成を目指します。ゲーム進行とともに、北極の海氷が減少し、海洋酸性化やトナカイ大量死などのイベントが発生するため、それらに対して研究活動や政策制定、開発といった対策をとっていきます。ロールプレイを通して、現在の北極域先住民をとりまく自然環境と社会的状況の複雑さを体験し、これからの北極について主体的に考えます。



『The Arctic』体験ワークショップのようす
(2019年11月27日大阪教育大学)

日 時：4月4日(土)10:30~12:30、14:00~16:00

会 場：国立民族学博物館 第3セミナー室

講 師：大石侑香(本館 特任助教)

定 員：各回24名(中学生以上)

参加方法：要事前申込(先着順)/参加費無料

— 大石 侑香 (学術資源研究開発センター 特任助教)—

5. 研究公演「絆——人をつなぐ太鼓」

詳しくはこちら

本公演で演奏する和太鼓「絆」は、人権意識を高めることや反差別を活動の目的としている点で、国内で活動する数千ものグループの中で異彩を放っています。異なる背景をもつ人びとが、違いを違いとして認め合い、楽しみながら学び合う社会を作るために、太鼓は何ができるのでしょうか。太鼓の響きや打ち手の姿が伝える何かを全身で体験してみてください。

日 時：3月20日(金・祝)14:00~16:30(開場 13:20)
会 場：国立民族学博物館 講堂
出 演：和太鼓 絆
司 会：寺田吉孝(本館 教授)
定 員：450名
参加方法：要事前申込(応募多数の場合は抽選)／要展示観覧券



— 寺田 吉孝 (学術資源研究開発センター 教授)—

6. 研究の窓

カワウを同時に孵化させる技術

自然下のカワウは、親鳥が2-3日に1個のペースで産卵する。したがって、雛も抱卵期を過ぎると2-3日に1羽のペースで孵化してくる。

ところが中国雲南省大理市の鵜飼い漁師たちは、飼育下のカワウを同時に孵化させている。自然下ではみられず、漁師の経験に裏打ちされたカワウの同時孵化の技術を紹介する。



ヒナに半消化した魚肉を与える親鳥

— 卯田 宗平 (人類文明誌研究部 准教授)—

7. コレクション展示「朝枝利男の見たガラパゴス

——1930年代の博物学調査と展示」(展示ツアー)

詳しくはこちら

1932年のガラパゴス諸島に足を踏み入れ記録した日本人がいた。コレクション展示では、アメリカの学芸員で画家・写真家・剥製師でもあった朝枝利男がガラパゴスで撮影した写真を中心に彼のアルバム・日記・魚の水彩画について紹介します。

期 間：1月16日(木)~3月24日(火)
会 場：国立民族学博物館 企画展示場
観覧料：一般 580円(490円) 大学生 250円(200円)
高校生以下 無料

※()は20名以上の団体料金
リピーターは団体料金を適用
※本館展示もご覧いただけます。



— 丹羽 典生 (学術資源研究開発センター 准教授)—



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp